

町長

ひとりごと

88

斉藤

譲



球春を迎えた。

サッカー熱におされて、プロ野球の地盤沈下を心配していたファンの一人であるが、予想に反して今年のプロ野球は開幕以来客足も、テレビの視聴率も好調のようで一安心している。先日あるテレビで、最近の高視聴率番組は断トツにプロ野球、それも巨人戦だと聞いてわがことのように喜んでゐる。その時の話では、Jリーグの視聴率は全く低調だということであった。サッカーファンには申し訳ないが、たしかに激しい動きの連続に迫力を感じるのがあるが、私のように観戦、それもテレビ観戦一方の単細胞人間には、得点の少なさがたまらなく退屈になってしまう。その点、プロ野球は投手戦、打撃戦、静と

動の組み合わせがあるからよい。特に巨人軍は、松井・落合の活躍によって打戦に迫力を増し、昨年とは比べものにならないほど逞しいチームに変身したようだ。ファンとして長嶋巨人軍の復活を予感し、現在の調子で今シーズンは突っ走るのではないかと期待している。だから今夜も巨人軍の勝利を夢みて、家族に煩らわれない部屋でただ一人、テレビ観戦をさめこむ。春の宵の秘かな私の楽しみの一つである。

▼ところで、二年目を迎えたJリーグは、チーム数も増えますます国民的スポーツとしての広がりをみせている。特に地域興しに与えるJリーグ効果は測り知れないものがあり、いま全国各地の地方都市に、Jリーグ入りを目ざしたサッカーチームが続々と結成されつ

つある。また、都市部の少年サッカー組織率は、野球のそれを圧倒しているという。この波は、農村部にも波及しはじめており、当町

春の宵



でも最近少年サッカーが生まれ、練習を続けている。今まで、野球と剣道を中心にボランティアによる指導と父兄の支援によって活動をしてきたのであるが、サッカーの登場によって、若干状況変化も生まれてきており、今後子供の意向を

尊重しながら、指導者、父兄間、また体育協会の中でも十分話し合いをしていかなければならなくなっているように思う。なにしろ子供の絶対数が減少してきているのであるから、お互に子供の取り合いをするようなことがあってはならない。一時的判断ではなく、長い目で相互の棲み分けができるように知恵を出

事が会長となって正式に招致委員会を発足させ招致活動を始めている。このことを考えただけでも、今後サッカーは、全国津々浦々にまで急激に浸透してゆくことになるであろう。戦後の復興と期を一にして国民的スポーツとして発展してきた野球。多くの少年に夢と希望を与えてきた野球。その野球もやがては、サッカーに主役の座を明け渡す日が来るのかも知れない。下手ではあったが、曲りなりにも中学三年間野球に明けくれた私にとって、一抹の淋しさは禁じ得ない。しかし、これも時代の流れであり、何事も栄枯盛衰は世の習いであるとしにいきかせる春の宵でもある。

▼いま春の宵に浮かれて家の外に出れば、辺りはむせかえるような新緑の香に満ちている。舞台はあつという間に花から緑の場面に変わっているのである。思わず、花のいのちは短かくて、という感慨が過る。田中の道へ足を運べば、耕されて黒々とした田んぼが連なり、躍動心をくすぐるような春の息吹きがうす闇の中を漂っている。道脇の用水路からは、コウコウという快い水音が響き、田んぼのあちこちでは、まるで斉藤信夫氏の「蛙の笛」の世界を彷彿させるような蛙たちの合唱がコロロ、コロロと聞こえる。

まさに童謡の世界だ。宋の大詩人蘇軾の詩に有名な「春夜」がある。

誰もが知っている。
春宵一刻值千金

花に清香あり月に陰ありてはじまる七言絶句である。春の宵の素晴らしさをこれほど短かい言葉で的確に表現している詩を私は他に知らない。

時代を超え、国を超えていま清冽に蘇軾の心が胸に響いてくる。テレビ観戦も悪くはないが、やはり春の宵は自然の中にこそ千金の価値がある。人の心の豊さもまた、その感動の中でこそ涵養されることを私たちは肝に銘ずるべきだ。